

私達の暮らす日本は、国土の70%程度が山地であり、急峻な地形が多いことから、短時間で急激に河川の水位が上昇する傾向にあり、人口・資産の多くは下流域の平野部に集中しているため古くから水害に悩まされてきました。

また、最近では、短時間に局地的に多量の降雨をもたらす「集中豪雨」が増えつつあり、ひとたび河川が氾濫すると浸水区域は大きく広がり、近年の都市への人口集中も加わって、その際の浸水被害は膨大になります。

浸水被害解消を目指し、河川改修などの治水事業を着実に進めていますが、財政状況や想定（整備水準）を上回る洪水の発生などにより、治水事業のみで完全に被害を防ぐことは困難な状況です。

このような状況から、従来より、治水事業と水防活動は、両輪となって水害を防止していくことが重要な位置付けとなっており、地域自らが水害防止に寄与することが望まれています。

「火事は最初の1分、水防は最初の5分」が重要といわれ、初期の発見と対応判断が求められます。これを踏まえ、水害防止対策を効果的に推進するためには、情報共有や変状把握の重要性、工法判断、迅速な現場対応等、幅広い活動が求められています。

水防団は、堤防を平素から見て回ったり、洪水、津波又は高潮のときの被害を最小限に食い止め、水害から私たちの生命と財産を守る役割を果たします。

本テキストは、水防に関する原理・基本知識から最新情報や技術的知見を含めて掲載しており、若手水防団員等を対象とした「水防技術の伝承資料」として活用することを目的として作成しています。



水防訓練 (中部地方整備局)